

地域包括ケアに関する取り組み

南区

令和8年3月末現在

〇概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】 南区の面積は7区中5番目であるものの、人口は東区に次いで2番目に多く、人口密度も中央区、城南区に次ぐ3番目。昼間人口に比べて夜間人口が多い「くらしのまち」である。自然環境にも恵まれており、「ため池」は地域のオアシスとして散策コース等に活用されている。また、丘陵地が点在している。	人口（人）	272,257
【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 ※校区高齢化率は日本人のみ 高齢化率が全市平均より高く、15.2%（大楠校区）から35.1%（西長住校区(南区のみ)）まで差があり、各町内でも高齢化率の差が大きいところがある。	高齢者数（人）	63,595
【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】 医療機関は、基幹病院が3か所あること、精神科病院が5か所あることが特徴である。また、三師会を中心に、医療と介護の多職種間での連携した取り組み等が活発で、南区医師会では、在宅医療ネットワーク(平成11年～) 認知症診療ネットワーク(平成24年～)、区民と医師との会(昭和51年～)などに取り組んでいる。	高齢化率（%）	23.4%
	小学校区数 (自治協議会数)	25 (25)
	いきいきセンター 圏域数	11

〇地域包括ケアに関する現状と課題

〇ACPへの取り組み 認知症等高齢者数の増加の現状により、高齢者自身の自らの意思に基づいた生活が維持できるよう、早い段階からACPの取り組みが必要である。 〇認知症高齢者に対する理解促進 家族の介護負担や知識不足から「身体拘束」等の虐待事例の増加がある。医療・介護や権利擁護機関にとどまらず、金融機関など高齢者と接する企業等への理解促進を目的とした研修実施が求められる。また、金銭管理や契約等の支援検討（成年後見制度の活用）が必要。 〇地域活動における担い手不足が深刻化 〇オンラインを活用した地域活動等の仕組みづくり 〇複合課題に対応できる地域共生社会の実現 〇消費者被害防止の取り組み 〇「医療・介護等事業所ネットワーク」の活動推進

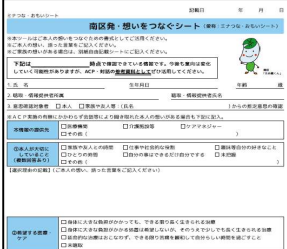

1. 令和8年度取組みの中で、特徴あるもの

取組み内容

～高齢者が安心して暮らすことができる南区を目指して～

高齢者の意思決定支援（ACPへの取組み）

- ・在宅医療・介護部会ワーキングで南区独自で作成した、本人の“想い”を支援者同士でつなぐための支援シート（「南区発・想いをつなぐシート」）を活用し、多職種と連携した意思決定支援の実施展開
- ・「もしバナゲーム」の校区単位での開催

このシートは、


- ご本人の想いや大切にしたいことを記録し、
- 支援者間で共有・引き継ぐことで、
- 「その人らしい生活・療養」をチームと地域で支えることを目的としています。

【記録者】
ケアや支援に携わるすべての専門職
(ヘルパー・事業所、デザイナーズ、認知症、居宅介護支援事業所、介護施設、医療機関等の関係者)

【活用場面(例)】
①日常的なケアの情報共有
②担当者会議、カンファレンス、事業所等の変更時に持参
③療養場所が変わる時(入院・退院・入所)




高齢者向け「デジタルカフェ」の実施

- ・高齢者の社会参加と介護予防を促進するため、暮らしに便利なスマホアプリの案内やQRコード決済の体験などを行う「デジタルカフェ」を開設
- ・協力可能な企業・店舗・大学等を発掘して高齢者を支える多様な主体と連携



認知症支援、やさしいまちづくりのための取組みの実施

- ・キャラバンメイト作南区版「認知症すごろく」を活用し、認知症理解に向けた普及啓発
- ・ユマニチュード講座、認知症サポーター養成講座等の開催
- ・いきいきセンター巡回等による多機関、多分野連携の促進
- ・いきいきセンターと認知症初期集中支援チームによる認知症支援

高齢者権利擁護の取組み

- ・介護事業所を対象とした研修会やいきいきセンター巡回等による、ケアマネジャーなど専門職を中心に、高齢者虐待、消費者被害を正しく認識するための啓発の実施
- ・南区担当弁護士と共同の勉強会を、地域包括支援センター社会福祉士連絡会で年2回開催し、権利擁護に係る知識及び対応力の向上

2. 令和7年度の取組み状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

認知症の方への支援（受診、支援拒否等）、単身（キーパーソン不在等）、家族の介護負担、複合課題を抱える世帯への対応 等

個別支援会議開催状況 会議回数：114回（うち介護予防型個別支援会議25回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

●地域の「きずな」づくり事業～多様な主体による支えあいの構築

・今後、高齢者人口が増加し、生産年齢人口が減少する状況が予測される中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活していくために、地域貢献に参画できる企業等の発掘を行い、既に地域活動を行っている医療・介護等事業所、地域住民の三者で高齢者を支えるネットワークの充実に向けた地域づくりの働きかけを実施。



高齢者地域支援会議 会議開催校区（地区）数：16校区（地区）、延べ回数：43回

開催状況 検討内容：現状、課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策検討、取組み開始

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

● ACPの取組み

「南区発・想いをつなぐシート」の作成

- 在宅医療・介護部会後、ワーキングを立ち上げ、本人の“想い”を支援者同士でつなぐための支援シート（「南区発・想いをつなぐシート」）を作成
- 多職種連携研修会で、講演「ACPの地域・多職種間連携」及び支援シートの目的、使用方法周知
- 「もしバナゲーム」の校区単位での開催
- 圏域居宅介護支援事業所、医療機関巡回による啓発



● 複合課題への取組み

- 南区障がい者基幹相談支援センターと区の定例会開催
- 南区障がい者基幹相談支援センターといいききセンターの意見交換会実施
- ささえあいの会グループ研修で基幹相談支援センターとの情報交換会を実施
- 南警察署と区の意見交換会実施

圏域連携会議
開催状況

会議回数：7回
検討内容：認知症になっても自分らしく暮らせる地域づくり、事例検討（セルフネグレクト、複合課題）を通じて多職種連携の強化

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

【在宅医療・介護部会】「ACP」をテーマに意見交換を実施。健康な段階からのACP普及、啓発の強化が必要であること、現場職員のACPに対する理解と実践スキルの底上げの必要性、病院と施設間の情報共有にも課題があることを確認。

【権利擁護部会】「セルフネグレクト」について意見交換を実施。セルフネグレクトの事例は、支援の糸口を見出すことが難しく、その背景はさまざま、画一的な対応で問題解決が困難である。他機関が連携・協働することが支援するうえで重要であることを共通認識するとともに、事例の蓄積と共有を勧め、権利擁護にかかわる関係者の対応力を高めていく必要性について共有。

【生活支援・介護予防部会】通信利用調査で浮き彫りになった現在のデジタル化の普及状況や利用状況、利用目的、利用上の不安を共有し、福岡市社会福祉協議会や小規模多機能連絡会からの事例を紹介し、「デジタル化が進む中での生活支援について」の取組みについて意見交換を実施。

区地域包括ケア
推進会議開催状況

・区地域包括ケア推進会議1回
・部会 在宅医療・介護部会：1回、権利擁護部会：1回、生活支援・介護予防部会：1回
・検討結果等：市に報告する課題として「ACP認知度の向上のため、関心が持てる広報手法の活用など、効果的な啓発についての検討」「介護福祉士との多職種との目標共有の仕組みづくりについて検討」「セルフネグレクトの高齢者への支援と体制の構築について」「デジタル（オンラインによる交流、GPSによる見守り、LINE等での情報共有等）を有効活用するとともに不慣れな高齢者への配慮（操作のサポートや従来の方法での情報伝達等）に加え、デジタルへの依存にならず、ぬくもりを重視する地域づくりの推進」

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	南区医師会が中心となり実施。入退院支援、高齢者救急、ACPの地域・多職種間連携についての講演であり、各専門職がそれぞれの立場で連携できることについて認識した。
市民啓発	ACPへの取組みとして、「もしバナゲーム」を校区単位で開催。R7年度は7回実施した。
認知症診療ネットワーク研修会	南区医師会が中心となり、研修会を1回実施した。
職能団体による主な連携活動 ①介護支援専門員連絡会 ②南区ソーシャルワーカー連絡協議会 ③南区歯科医師会 ④医療機関巡回	①いきいきセンター巡回時、シャドーワークに対するアンケートを実施。ケアマネ会各グループ研修会を開催。 ②包括との連携のため、意見交換会の開催について検討。 ③包括による圏域内の歯科巡回を実施。啓発チラシ、「気になる高齢者のチェックシート」を用いていきいきセンター周知。 ④病院・連携室の体制及び、医療と介護の連携状況について共有。医療機関情報シートの作成。
事業所ネットワークの活動	・地域の高齢者支援に関心が高い医療機関・介護等事業所や企業等の多様な主体によって構成された事業所ネットワークが区内に16団体結成され、南区全校区をカバーしている。 ・各校区のニーズや課題に応じて、認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の講師、行方不明者捜索・声かけ訓練、出前講座の実施、行方不明高齢者受け入れ体制構築、認知症カフェ開催、地域のお祭り等の設営・出店、地域活動時の送迎等に取り組んでいる。 ・認知症本人ミーティング開催に向けて定例会を実施。